

生徒の資質・能力を引き出し、可能性を広げる多面的評価とは

高大接続改革で目指す資質・能力の育成を実現する上で求められるのが、多面的評価だ。

中でも、ペーパーテストだけでは測りづらい「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」などの資質・能力の適正な評価においては、多面的評価の視点が特に求められる。

ここでは、多面的評価に取り組む3人の教師の話から、

多面的評価の意義とそれを実践する上で留意すべき点について考えていく。

生徒の隠れた力が見えることで教師のモチベーションが高まる

編集部 多面的評価を行うことの意味は何だと思われませんか。

牛来 いわゆる学力の3要素を適正に評価するといったことだけではなく、多面的評価によって、教師の生徒理解が深まり、指導への意識が高まります。授業や学校行事、委員会活動や部活動、ボランティア活動など、様々な場面で生徒の活躍に目を向け、それらを評価の対象とすることで、ペーパーテストだけでは見えない生徒の隠れた力や可能性が見え

てきます。そうした生徒の姿を間近に見た教師は、その力をもっと伸ばそうと考え、生徒への支援が前向きなものに変わります。そういった指導が生徒の自己肯定感の向上に結びつき、日常生活や将来への意欲を高めていく……そのような相乗効果によって、生徒も教師も生き生きとし、学校全体が活性化していくのです。

中野 実際、教科指導に多面的評価を取り入れたところ、生徒の授業に向かう意欲や態度が変わりました。地理歴史・公民は事実的内容を学習するので、それに関心がないと「暗記すればよい」といった態度になり

がちです。しかし、授業の前に評価の観点を記したルーブリックを生徒に示し、今の時代に必要な力は何か、そのために授業でどういった力を育てていくのかを伝えることで、授業は教師から知識を与えられるだけの場ではなく、自分の資質・能力を伸ばし、認められる場であることを、生徒は理解します。生徒の中に授業に対する構えができるため、自分の強み・弱みは何か、どこを伸ばせばよいのか、自分がグループに貢献できることは何かを考え、授業に前向きに取り組むようになります。

進藤 これまで多くの高校が、ペー

神戸大学
アドミッションセンター
特命准教授
進藤明彦
しんどう・あきひこ

岡山県公立高校教諭
(生物)、科学技術振興機構理科教育支援センター主任アナリストを経て、現職。



ーパーテストの点数や進学実績を上げることが強く求められ、それらの指標で教育活動が評価されることが多かったと思います。教科外の活動の評価や知識・技能以外の資質・能力にまで意識を向けにくかった状況が、今回の高大接続改革によって変わり、知識偏重の教育から脱却する最大の好機になることを、お二人の話を伺って改めて感じました。

周りの生徒に刺激されて一歩を踏み出す

編集部 多面的評価をどのように

行っているのか、実践内容を教えてください。

牛来 本校では、社会や人生への向き合い方、価値観などを学ぶ機会として、1・2年生で年2回、3年生



東京都立町田高校
統括校長
牛来峯聡
ごらい・みねとし

教職歴 35年。同校に赴任して3年目。東京都教育委員会などを経て、現職。

東京都立町田高校

- ◎ 2007年度から東京都教育委員会「進学指導特別推進校」の指定を受け、海外研修、調査研究活動、理数教育の充実などに力を入れ、「未来に向けた人づくり」を図る。
- ◎ 設立 1929（昭和4）年
- ◎ 形態 全日制・定時制／普通科／共学
- ◎ 生徒数 1学年約300人
- ◎ 2017年度入試合格実績（現浪計）
国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京工業大、一橋大、大阪大などに54人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ776人が合格。
- ◎ URL <http://www.nachida-h.metro.tokyo.jp/zen/indexa.htm>

で年1回の「教養講座」を行っています。この種の講演会は話を聞いて感想を書く程度でしたが、それでは時間が経つと講演直後の感動を忘れてしまい、生徒の中に何も残らない



福岡県立折尾高校
進路指導部
進学指導課長
中野孝太
なかの・こうた

教職歴 13年。同校に赴任して3年目。担当教科は地理歴史・公民。

福岡県立折尾高校

- ◎ 商業系2学科、家庭系1学科を擁する専門高校。実学を重視し、企業と連携した課題解決型学習を行う。福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」研究開発校。
- ◎ 設立 1956（昭和31）年
- ◎ 形態 全日制／総合ビジネス科・ビジネス情報科・生活デザイン科／共学
- ◎ 生徒数 1学年約240人
- ◎ 2017年度進路実績（現役のみ）
4年制大学は、北九州市立大、近畿大、福岡大、立命館アジア太平洋大などに延べ34人が合格。短大、専門学校進学98人。就職95人。
- ◎ URL <http://orio.fku.ed.jp/Default2.aspx>

と感じていました。そこで、この「教養講座」では、講演後に生徒が話し合い、また書くことで自分の考えを整理する機会を多く設けました。

まず、各自でワークシートに整理した講演の論点を基に、自分の考えを400字でまとめます。その上で、グループで話し合いをしたり、講演者との質疑応答を行ったりします。そして、学年全体で共有したい内容は、「教養講座通信」に掲載します。教師は、その一連のプロセスを通して、生徒の変化や努力を見取り、400字のまとめを読んで「自分の意見を持つことができているか」を3段階で評価します。その方法に変えてからは、講演者に質問する生徒が増え、一步を踏み出せなかった生徒も周りの生徒に刺激されて、主体的に取り組むようになりました。

中野 私は、毎回の授業で生徒に振り返りシートを書かせ、単元末と学年末にはそれぞれ自己評価を行います。さらに、学期に1回、パフォーマンス課題で他者評価の機会も設けています。授業での自己評価は、毎回すべての観点を振り返ると時間がかかるので、観点を絞って評価させています。

自己評価と他者評価の両方で、自己を客観視させる

編集部 評価を行う際には、どのような点に注意されていますか。

中野 授業における評価で特に注意しているのは、自己評価と他者評価の両方を行うことです。自己評価をさせることで、以前と比べてどうだったのか、過去の自分との差異を認識し、新たな目標や課題を持って学習に取り組むようになります。また、自己評価でよい評価をつけた生徒が、単元末に行うグループ課題後の相互評価において、メンバーから「もっと頑張ってたほしかった」といった厳しい評価をもらうこともあり、他者からも指摘を受けることで、自己と他者の認識の違いに気づき、自分をより客観視できるようにになります。

そして、教師が主体性や協働性を測る際、発言の回数などだけで評価しないように気を付けています。発言の頻度や声の大きさを基準にしてしまうと「言ったもの勝ち」になるからです。教師間でしっかり評価基準を定めて、記述や発言の内容、行動などから生徒の変容を捉えること



多面的評価は、生徒の
資質・能力を引き出し、
意欲的に取り組む姿勢を育む

牛来峯聡

が大切です。

牛来 管理職として意識しているのは、教師間のベクトルを合わせることで。本校では2017年9月、

育てたい生徒像を明確にして従来の取り組みを整理したブランドデザインを示しました。これまでの本校の取り組みを整理し、それぞれの目的や目標を明確にしただけなので、先生方は問題なく受け入れてくれたと思っています。仕事を増やすのではなく、それぞれの取り組みの実効性を高めることで教育活動の底上げを図りたいと考えました。

また、個々の活動を充実させるためには、従来の枠にとられず組織を再編することも必要だと考え、前述の教養講座の担当は、新分掌組織の「調査研究・研修部」としました。多忙な担任団に代わって準備を進め、3段階の評価基準についても担任と情報を共有しながら行っています。

す。それぞれの組織に役割を与えることで、責任を持って学校を動かそうとする先生方の意識が高まり、取り組みは軌道に乗りました。

進藤 多面的評価の実践がうまく行われている学校では、管理職やミドルリーダーが先生方を引っ張り、ビジョンを全校で共有しています。一部の教師だけで育みたい資質・能力やルーブリックを考えて提示すれば、ほかの教師は楽かもしれません。が、いま一つ腑に落ちなかったり、考え方に違いがあったりして前向きに取り組めないといった状況になりかねません。

最初は時間がかかっても、生徒にどのような資質・能力を育みたいのかを議論し、部活動ではこの資質・能力、「総合的な学習の時間」ではこの資質・能力といったような共通理解を持てれば、あとは具体的な評価指標をつくるだけで各活動をス

ムーズに進められると思います。

多様な資質・能力を身につけた
その先に大学入試がある

編集部 高校時代までに多様な資

質・能力を培った高校生が増えていく中で、大学ではどのように求める人材を選抜していくのでしょうか。

進藤 先生方の中には「高校で多面的評価を行っても、大学入試ではその結果をしつかり見てもらえないのではないか」「一般入試に多面的評価は関係ないのではないか」といった不安や疑問をお持ちの方が少なくないかもしれません。文部科学省は、推薦・AO入試だけではなく一般入試でも多面的・総合的評価を求める方向で動いています。

本学でも、推薦・AO入試で得た多面的・総合的評価による選抜のノウハウを一般入試に生かすことを考えており、19年度入試から7学部でAO型の「志」特別入試を実施します。例えば、国際人間科学部環境共生学科では、1次選抜で調査書・活動報告書などの書類審査や、大学で学ぶ上で必要となる基礎学力を測る総合問題、大学教員の講義を聴講

してのレポート作成を課し、2次選抜でポスタープレゼンテーション・小論文と面接・口頭試問を行うという選考プロセスにして、受験生の資質・能力を多面的・総合的に評価する予定です。

中野 推薦・AO入試では、どの大学でも小論文や面接、プレゼンテーションなどが重視されています。主体性や思考力を伸ばすだけでなく、それらの資質・能力を表現できる力も身につけておかなければ、入試では通用しない可能性があります。

牛来 講義の聴講後にレポートを作成するという形態は、本校の教養講座に通じるものがあります。高校と大学がそれぞれ多面的評価について真剣に考えるほど、高校における評価のあり方と大学が求める学生像は一致するのだと改めて感じました。

ただ、私たち高校教師は、大学入試を過度に意識して教育活動を変えろといった事態は避けるべきだと思います。20年後、30年後の社会で必要とされる人材を育むために、高校はどのような教育活動を展開すべきかという視点を持ち続けながら、多面的評価を実践する中で、生徒に多様な資質・能力を発揮させたいと考



時間がかかっても、どの活動で
どのような資質・能力を育むのか、
教員間で共通理解を得ることが大切

進藤明彦

えています。その結果、多様な資質・能力を身につけた生徒が、大学が用意している多様な入試に対応できるというストーリーを描くことが、高校に求められる役割だと思います。

進藤 私も、調査書や活動報告書の作成のために「資格取り合戦」となるのは避けなければならぬと考えます。「志」特別入試」では高校時代の活動実績の記入欄を5つにしましたが、それは、活動実績が多ければよいというわけではないという本学からのメッセージです。

牛来 活動履歴を残すことが多面的評価だと捉えられると、非常に狭い教育活動になってしまいます。多面的評価は、生徒の資質・能力を引き出し、何事にも意欲的に取り組める人材を育成するための取り組みの一つです。そのためには、長期的な視点で生徒の変化や成長を見取り、評価する必要があります。そこで、本



自己と他者による両方の評価を
行うことで、多くの気づきを得て、
自分を客観視できる

中野孝太

校ではeポートフォリオの活用を強化していく予定です。高校時代のあらゆる活動の履歴を、ICTを使ってポートフォリオとして蓄積し、複数回振り返らせることで、生徒が自らの成長や変容をメタ認知(*)できるようになります。学校や教師には、そうした機会や環境をつくり、活用することが求められるでしょう。

学校全体でビジョンを共有することが大切

編集部 多面的評価を行う際に取り
組むべき課題を教えてください。

中野 多面的評価を一部の教師だけで行うのは限界があり、学校が一丸となって取り組む環境を整えなければなりません。そのためには、町田高校のように先生方がビジョンを共有し、ベクトルを合わせる必要があります。と思います。

進学校の場合は、大学入試の変化という危機感を共有できるかもしれません。しかし、本校のように大学進学希望者の方が少ない学校では、入試改革といった外的要因だけでは、生徒も教師もなかなか変化しにくいものです。「社会で求められる資質・能力とは何か」という根本をしっかりと議論し、教師が思いや目標を共有することが大切だと思います。本校も動き出したばかりですが、今後は育てたい生徒像を土台に、進路学習や課題研究など、多様な活動を評価するルーブリックを整備したいと考えています。

牛来 多くの先生方が、多面的評価の必要性を理解しています。しかし、評価に時間が取られ、特に教科指導に影響が出るのではないかといった不安があるようです。また、管理職も、多面的評価の導入で先生方の負担が増えることを危惧しています。そこで、管理職がリーダーシップを取り、この活動はさらに充実させて取り組ませるが、この活動は少しスケールダウンさせようといったように、教育活動にメリハリをつけることが今後ますます必要になると思います。これまでの教育活動を振り返り、学校のグランドデザインを明確に描くことが求められています。

一方で、多面的評価とは具体的にどのようなものなのが見えていない教師が少なくないのも事実です。見えないから関心が持てない、関心がないから取り組まないというわけです。そこから、それが見えてくれば現場の先生方も動きやすくなると思います。多面的評価の意義や具体的な実践事例を先生方に伝わるよう情報発信していくことが、我々管理職や中野先生、進藤特命准教授のように、多面的評価の必要性を理解している先生方の役割だと思います。

* 自らを俯瞰的・客観的に捉えること。